旅　行　記

１年１組

さぁ気分はガラリと代わり第２部お楽しみの旅行記へと話は変わっていきます。このアメリカ旅行をふり返れば第１部のような多大な利益をあげてきた分もありますけが、やっぱりつらいけど楽しかったの言葉につきるでしょう。話すことは山ほど、いや山ほどなんて言葉では埋め尽くせないくらい話すことがいっぱいあります。いろんなことがありました。これらのことを以下より日記形式にして自分のアメリカ生活を振り返りながら楽しく、少し真面目に話していきたいと思います。

１２月２５日（日本〜アメリカ）
今日はクリスマス。例年ならワクワクウキウキの胸の鼓動の高まりが時間を過ぎるごとに増していくのに、いつもとは違う。確かに鼓動の高まりは感じられるのだが何か違うのだ。不安なのか喜びなのかそれとも開き直り過ぎているのだろうか、いささか不満ではある疑問を抱きながら何事もなく出発できた。アメリカ行きデルタの飛行機搭乗中、スチュワーデスさんに英語が片言でも通じた喜びのあまり、抱いていた疑問がどこかへ飛んでいってしまった。アメリカに着き最初の試練でもあり、まだ未体験のものに突入して行くことになった。それは税関である。しかし無事通過。ほっとしたものである。でもそれよりも感動し、少し不思議に思ったのが、出発してから到着まで夜空を見ていないことだった。これはなんとも言えない気分であった。それでホームステイ先へ連れていかれドギマギしながら結局その日は疲れてすぐ眠ってしまったのでした。
１２月２６日
　疲れたなどとれているわけないのに、取れているふりをしながらマックと一緒にダウンタウンを歩きショッピングに連れていってもらった。この日一日だけで１２０ドルにもおよぶ買物をしてしまった。買い終わったあとに頭に「失敗」と「後悔」の２つの言葉が浮かび、この言葉が頭の中を飛び回った。なぜこんなに使ったかというと、アメリカの物価の安さに驚きそしてその直後喜びがあふれんばかりに僕の胸に広がっていったからだ。マックも買物の時に簡単な英語で通訳してくれたし、このままいくといいなと思った１日だった。
１２月２７日
　この日アメリカに来て３日目。うれしいことがやっと起きた。しかも２ついっぺんに。１つは僕たちのためにパーティー開いてくれたこと。そしてびっくりしたのはそのパーティーをしたＡｙａの家は和式、囲炉裏もありし、靴も脱ぐし、さらにパーティーもすごく楽しく、そして家庭的な団らんというものを感じた。そういえばこの日、他のみんなのホストとじっくり顔を合わせしたのははじめてだった。みんなとてもかわいい女の子ばかりだった。その中の一人、Ａｙａがチアガールなので応援のしかたを教えてくれたり僕がちょこっとダンスを踊ったり。今思い出してみてもこの日のパーティーがすごく印象的だったと思う。もう１つの出来事は絶対に今の日本にはないことがある。それは、福祉関係のものである。日本では足や身体の不自由な人達は車椅子を利用して生活できる。もちろんアメリカもそうである。しかしアメリカはそれだけではない車椅子のままバスに乗れるのだ。日本で、もしこういう人がバスに乗るとすれば、車椅子を入れて、人を抱き上げてーーーとすごく大変だがアメリカでは乗車、下車するときのステップがアップ、ダウンしパワークレーンのように人を車椅子ごと運んでくれるのだ。この光景を目にした時、感動と喜びを感じた。なぜかわからないが、みんなが一緒に平和に過ごせる日が近づくような気がしたのかもしれない。

１２月２８，２９日は，こんなこと考えもしないということにおそわれた。アメリカ滞在中一番いやな出来事であった。それの原因は親子ゲンカに始まった。親子ゲンカというよりは母さんがマックを一方的にしかっている。マックは感情の激しい子なので，母さんに怒られては涙している。そして僕に問いかける。『Ｄｏ　ｙｏｕ　ｌｉｋｅ　ｍｅ？』僕の答えは，もちろん『Ｓｕｒｅ．』である。最初は，こんなこと言われてわけがわかんないし，何を考えてこんなこと言ってんだか，もうわや。とか，正直言うと思ってたし，その質問に対してすごく疑問，不安さらには愚劣さえも感じられていた。でも，その考え方は当り前のようだが違っている。それに，こうして振り返ってみて，気付いたというよりも，始めからわかっていたのかも知れない。わかっていながらも，その存在に負けてしまうようで，何か変な意地をはって認めざるを得ないのが惜しいような，自分でもわかりにくい変な気持ちにからまれていたのだと思う。そして次の日，決定的なことが起きた。気になるようだが，ここはこれ以上言うとプライバシーにかかわるのでふせておきます。でもそれで，益々僕の気持ちが不安定になっていったのは言うまでもありません。つらくて，さびしくて，人に支えてほしくて，誰かの肩に寄り添いたくて・・・。そんな気持ちが胸の中を数往復しました。こんな気持ち，知らない方が楽なのに。

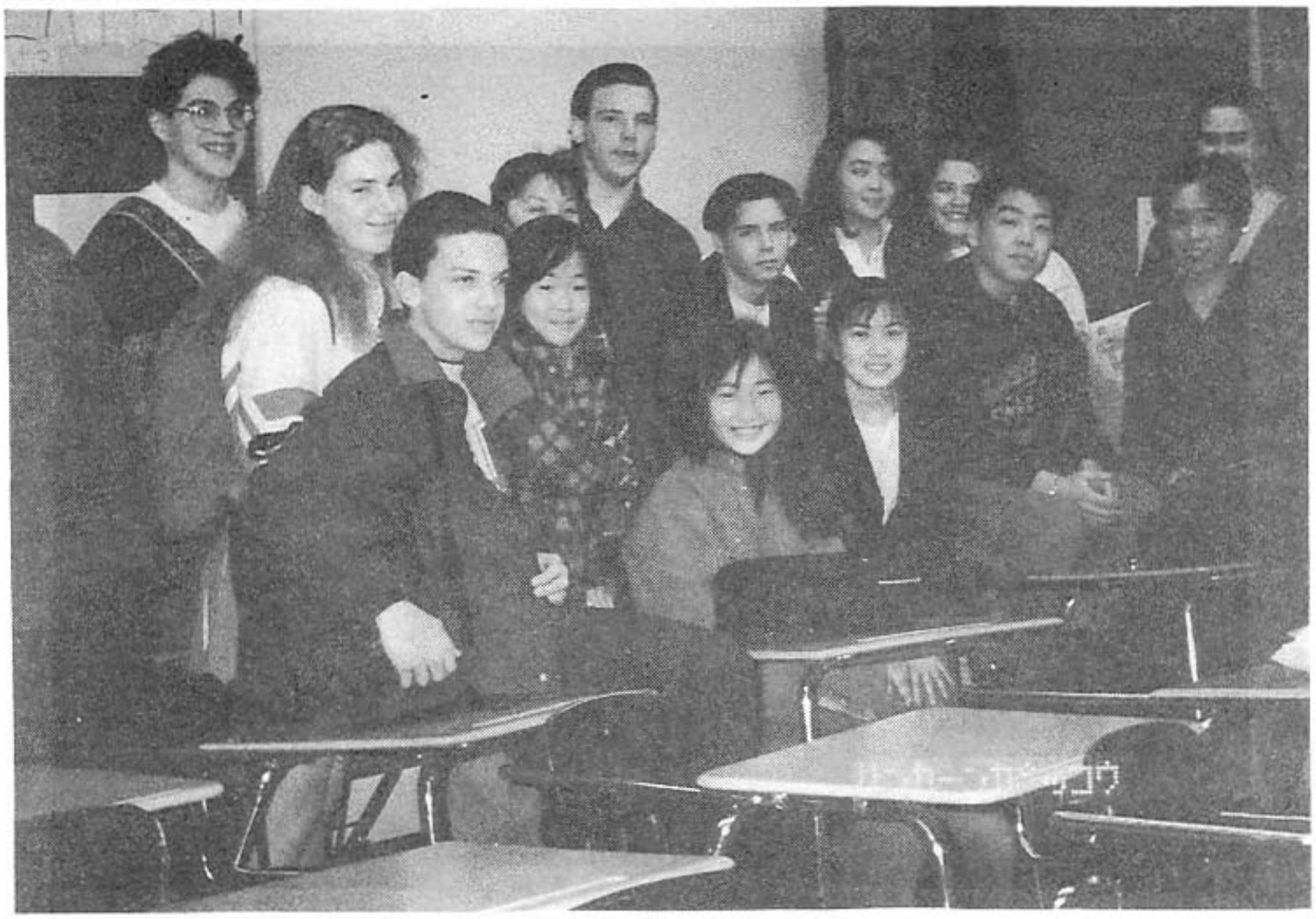
１２月３０日

この日は，また２７日の時のようにお買物会みたいなものを開いてくれた。場所は『ＬＩＯＴＤ　ＣＥＮＴＥＲ』という所で，デパートが上じゃなく，横にでかくなった場所だ。そこで買物の他にスケートができるということで，スケートをみんなですることになった。僕はスケートはそんなに滑れるほうではなかったが，小学校時代，自分の母校には冬になると，全校生徒でグランドにスケートリンクが作られていたのでまんざらスケートに接していないというわけでもなかった。果たしてうまく滑れるだろうか，ここで転んだりしたら，女の子にかっこわるい姿を見せてしまう，などと思い，口では「オレ全然うまくないし，本当にカッコよくなんか滑れないよ。」と言っておきながら，心では全く逆のことを思い，はりきると同時に不安にからまれていた。「もう，やけくそ，一か八かだ。」と思いながらスケートリンクに飛び込むと，思ったよりスイスイ滑れている自分に，僕自身感動よりも驚きの一言だった。あとここでもう一つ驚いたのは，一部でも書いたかもしれないが，物価の違いである。こちらで，もしジーンズを買うと約＄３６～＄３７（１ドル１２０円として日本円で約４３２０円～４４４０円）しかし，日本で買うと約７８００～８０００円となる，つまり値段が約半分くらいなのだ。しかもこのことはジーンズだけでなくほとんどの物，全般に共通していえることである。もしかすると半分どころでなく，それ以下かもしれない。というわけで僕も今日一日だけで，＄１２０近く使ってしまった。こうして買物しすぎると気付いたのだが，どこの店にいっても『ＳＡＬＥ，５０％～７０％　ＯＦＦ』などと日本でもありがちなものが，ぶらさがっている。これはあとで日数を経過していくごとに気付いたのだが，ここでは毎日のように，この『ＳＡＬＥ』というのがぶらさがっているのだ。しかし，毎日でも日本の半分，もしくは半分以下の物価なのでうれしく，こっちはたとえ毎日でも気にはならなかったが・・・

１２月３０日，１月１日早朝，

この２日は『感動』の２文字にひたっていた。なぜなら，そう，新年を日本じゃなくアメリカで過ごすことになるからである。時間が過ぎるごとにドキドキ，ワクワクの連続，自分が自分じゃないみたく感じれるほど，心は踊っていました。あと２時間，あと１時間，ついにあと４０分をむかえたとき，睡魔という強敵が僕の前に猛然と立ちふさがった。僕は睡魔の誘惑に押され，じゃあ１５分だけ寝ようと思った。が僕の意思とは反対に，身体が意地を見せている。おかげで僕は睡魔に勝ち，感動的な夜を過ごせたのだ。ワインレッドのジュースをグラスに注ぎ，カウントダウンと同時に自分の心を波打つ。『ゼロ』の言葉と同時に，それを飲み干し，互いに一言あいさつを心から交わす。『ＨＡＰＰＹ　ＮＥＷ　ＹＥＡＲ！！』－　もう，感激

１月２日
この日，僕は久しぶりに真面目な意見をもった。それは実際たいしたことじゃないのかもしれないが，僕にとっては，きっと僕以外の僕と近い年代や，もちろんそれ以外の人も大事なことだと思う。そのこととは，アクセントのことである。あまりわかってもらえないかもしれないが，今日本の若い世代の人達の中で音の平音化とでもいうのだろうか，音が単一化されている。こういうのをブームとか言うと筋違いだが，そのくらいの域にまで広まっている。なぜ，それまでもの域に達したかというと，たぶん大人たちまでもが使っているからだ。もちろん自分の子供やＴＶというマスメディアの影響を受けて。もし僕たちが大人になり結婚するとしたら，次の時代，つまり僕たちの子供にまで平音化が広まってしまう。さっきから平音化，平音化って，平音化が起きたからって何なんだと言われると，僕は自信をもって答えれます。『あなたは恐くないですか。音というものが音という特性を失い，音というものでなくなることを。』　もちろん僕は今はまだ，そんなに感じてはいませんが，しかしそんなことが現実に起きることを考えてみると，不思議な感じがして恐くなってしまいます。１つ例をあげてみるとコンサートなどの「ｌｉｖｅ」が『ライブ』とアクセントが消えてしまいます。字で書くとわかりにくいですが音に出すとわかるでしょう。というよりは，このくらいはみんなが気付かぬうちに使っているでしょう。音がそう覚えさせるのです。音は，せっかくこのような特性をもっているのに，それを悪い方へとみんなが導いているのです。むろん僕もその中の１人ですが，この時よりきちんと物言を正しい発音でするように心がけています。みんな英単語，授業のアクセントや発音の練習とかだと，きちんとできているのにその場から離れると戻ってしまいます。其の場しのぎではなく持続しなければと思わされた１日でした。
１月３日
この日は，ちょっと貴重な体験をしてしまった。この国の人々は，たいていクリスチャンだとみんな考えがちだが，そうでもない。なぜなら日系人がいたり，移住，渡米してきた人達がけっこういるからではないかと思う。それとは全く関係ないのだが，僕のホームステイ先の家も仏教徒だった。『Ｇｏ　ｔｏ　ｔｈｅ　Ｂｕｄｄｉｓｍ　ｔｅｍｐｌｅ．』と言われ，興味本意についていった僕は，そこに着いた時，驚きよりも期待していたものとは違ったのでショックだった。そこは児童会館のような感じで，しかも中へ入ると畳の上に正座ではなく，床の上にパイプイスだった。でも中にいる人達は様々だったのでおもしろかった。日本から移ってきたおばさんもいれば，日本語が少ししゃべれるアメリカ人もいる。もちろん日系人ぽい人も。お経が始まるとみんなが同時に経本を読み上げた，大きな声をはりあげて。この日はこれがきっかけで，とてつもなく不思議な気分にからまれ，夜寝てからも夢にお経がでてきそうな不思議な気分の１日だった。
１月４日
この日から１５日までは午後４時くらいまでは学校にいることになる。２，３日すると学校をホスト以外の子と過ごすことになるが，あまり変わらないことが毎日続いた。というわけで，学校の写真を交えて写真の解説をしていこうと思う。



（最後の日本語のクラスで。この中に　　さん　　ちゃんのホストがいる。）

というように変わらない毎日の中でも楽しくやってきたことが，これらの写真を見てわかるでしょう。本当に楽しかった学校生活でした。

１月８日

この日のことを書こうと思ったのは，国民性の違いがはっきりとわかるものを見てしまったからだ。それは路上駐車に関してである。日本でそれこそこんなことをしていたらレッカー移動されてしまう。いろんな人に聞いたけれど，納得できずにいた。日本に比べるとあんなに広い国なのに，なぜ料金を払えば短いとはいえど一定時間駐車可能なのだろうか。今度アメリカを訪ねた時に，これをはっきりさせよう。

１月１２日

下の写真がそうだが，この日は市長を訪問した。すごい威厳が感じられるオフィスに通され，緊張して待っていると市長が現れた。思っていたのとは１８０°違っていて，明るく，きさくな御方だった。質問などもやさしくしてくれ，プレゼントまでくれた。僕はあの独特のスマイルで僕たちを魅了し，やさしく，そして暖かく心から迎えてくれたあの人を忘れないだろう。

１月１１日

忘れたことがあるので書いておこう。下の写真は戦争（第２次大戦）で，悲しみを越え，つらさの上をもいく感情を味わった人達の詩や，その人達に関する石柱など，その場にいるだけで悲しみがシトシトと伝わってくるようなそんな場所だった。本当に戦争というのは喜びは生まない。というのが理解でき，２度とこんな惨劇を繰り返してはならないことを改めて思い知った。

（戦争のつらさがしみじみとわかる場所で。僕の左が　　ちゃんのホストＴｅｄｅｓｃｏのお母さん。）

（最初にのせたが気にいったので，もう一度のせてしまった。本当にマックとＭＯＭ　ありがとう。）

（今度はホストも入って記念の一枚を。みんなこの日まで，本当にありがとう。）

最後に，この日のことを語らせてもらえば，本当にありがちな言葉だが，今までのどんなことよりもそれの２倍，いや３倍・・・そんな数字で表す倍加じゃ表せないほど心をこめて『あ　り　が　と　う』　マックのこんな俺をかばってくれてのやさしさ。ＭＯＭの心のこもった本当にあったかい，香ばしい匂いの料理。他のホスト全員にやさしくしてもらい，全員女の子なのでテレてしまったこと。そして，このために本当に僕たちを助けてくれた伊東先生。最後に，僕の悩みを電話で聞いてくれ，僕たちのために自分の身をけずる思いまでして，心配してくれた竹内先生。いろんな人のありがたみや親切，それらを感じ取れた，この冬。ひとまわり成長したような気がする。僕は絶対この冬を忘れない，そして誇りに思っていく。最後にもう一度，いろんな意味をこめて，『あ　り　が　と　う』。